

Crown English Communication I, pp. 62–63.

Lesson 5

Food Bank

Food banks collect surplus food from companies, supermarkets, and farmers and give it to people who need ⁽¹⁾help. Charles E. McJilton started the first food bank in Japan, Second Harvest Japan (2HJ).

—1

In 1991 I was a university exchange student living in a part of Tokyo where there were many day laborers. When the economy went down, they could not find ⁽²⁾jobs. I often saw them sleeping on the streets. Their lives were not easy. Many men became alcoholics. Stopping drinking is not easy, but people can change their lives; it is never too late.

⁽³⁾Several years later, I decided to make a self-help center. Without the right “tools” (an address, a phone number, a place to store things and take a bath), it is hard to get off the streets. This center would give people the “tools” to help themselves. However, by 1997 I had found that there was something missing inside of me. I had a lot of “head ⁽⁴⁾knowledge” about homelessness, but lacked “heart knowledge.”

Lesson 5—Section 1

(1) help 図 1, pp. 911–12.

— 図 (後) ~s /-s/) 1 図 «人からの/…についての» 援助, 助力, 手伝い, 助け (aid, assistance) «from/with» ▶ Thank you for your *help*. ご助力ありがとうございます/Can I give you some *help with* that? そのことで何かお手伝いできますか/*get [seek] help* from an expert 専門家から助力を得る[求める]/I would never have made it without your *help*. あなたの助けなしでは決して成功しなかったでしょう/He quit smoking *with the help* of his family. 彼は家族の協力でタバコをやめた/He did it for himself, with no *help from* anyone. 彼はだれからの助けも借りず1人でそれを行った。

- ・ コミュニケーションには欠かせない基本的な語であり, 会話や作文で使える情報を辞書で調べさせたい。まずは図の記号から不可算名詞であることをチェックさせ, 第2用例の *some help* に冠詞がないことや, *help* が複数形になっていないことを確認させる。
- ・ 二重山形かっこ« »を使って, *help* とよく一緒に使われる前置詞が示されているので, これを確認させる。第2用例には«…についての»を表す *with* が, 第6用例には«人からの»を表す *from* の例が挙げられているので, 注意させる。
- ・ 第1用例の会話頻出フレーズ(Thank you for your *help*.)や, 太字用例のコロケーションに触れておくと, コミュニケーションに役立つ表現をチェックさせることができる。

(2) job 図 1, p. 1039.

job /dʒəˈb/ [語源は「口 (mouth)」]

— 図 (後) ~s /-z/) 1 図 (収入を稼ぐための) 職, 職業; 勤め口 (1) 職業を表すだけた語で《ややたたく》は *occupation*. (2) *post*³, *position* は支配人などの要職を, *profession* は医師などの専門職を表す; → *vocation*, *trade*, *work* 1 図 (1) ▶ Emma *took [found, got] a job* as a reporter at a TV station. エマはテレビ局の記者の職を引き受けた[見つけた, 得た]/*offer A a job* A〈人〉に勤め口を与える/*apply for a job* at a restaurant レストランの仕事に応募する/*lose [quit] a job* 職を失う[辞める]/a *teaching job* 教職/a *part-time job* アルバイト[非常勤]の職/a *well-paid job* 給料のいい仕事/a *temporary [permanent] job* 臨時の職[定職]/*change jobs* 転職する。

- ・ 教科書本文で次ページにある *work* と同じく「仕事, 職」の意味だが, *work* は不可算名詞であるのに対し, *job* は可算名詞であることを図の記号があることから確認させる。教科書本文では *jobs* と複数形になっていることもチェックさせる。
- ・ 図 1 には, 注意すべき用法に関する注記がある。ここでは *job* が日常語であることや, ほかの類義語(*occupation* など)との違いが解説してあるので参照させる。
- ・ 教科書本文と同じ *find* を使った第1用例をはじめ, 太字用例はいずれも *job* を使った表現としてよく使われるものであり, チェックさせておきたい。

(3) several 図 1, p. 1716.

sev·er·al /sévr(ə)l, sév(ə)r(ə)l/
[語源は「別々の」]

— 図 (比較なし) 図の前で 1 いくつかの, いくつかの, 数人 [個] の (a few の「少数」の具体的な数は文脈によるが, several は3-6の数をさすことが多い; ↓ 語法) ▶Bill stayed there for several days. ビルは数日そこに泊まった/I met this man several times and we became friendly. この男に何度か会って仲良くなった.
2 [通例 one's ~ + 複数名詞] それぞれの, 個々の (individual, separate); いろいろな (different) ▶They went their several ways. 彼らはめいめい別々の方向に進んだ/Several men, several minds. 《ことわざ》十人十色/several kinds of information about the election 選挙に関するさまざまな情報.

語法 several の用法

(1) several は通例 3 ないし 5, 6 ぐらいの数量を表し 名詞だけに用いられるが, some は漠然とした数を表し 名詞にも用いられる.
(2) a few は「少数の」の意味を表すが several は「少ない」の語感を持たない. そのため only several としない ▶only a few [×several] years ago ほんの数年前に.
(3) several は「いくつかの」の意味では通例 図と共に用いることはできない. the several changes は「そのさまざまな変化」の意味 ▶the few [×the several] boys その数人の男の子たち.

- 「いくつかの」という意味をチェックするだけでなく, 具体的にはどのくらいの数を指すのかを調べさせる。の解説や語法から, 3 から 6 程度の数であることがわかる。

(4) knowledge 図 1, p. 1071.

knowl·edge /nɒl(ɪ)dʒ|nɒl-/ (know-は/nɒ(ɪ)|nɒ/; →knife 語法) [→know]

— 図 1 [しばしば the/one's/a ~] (学習・経験による) «…についての/…という/…するだけの» 知識 «of [about, on] (wh 節) / that 節 / to do» (↓ コーバスの窓); [have (...)] knowledge [《ややかたく》] 知っている, 知識がある (↓ 語法) ▶Mayuko has (a) good [has no, doesn't have (any)] knowledge of American culture. まゆ子はアメリカ文化のことをよく知っている[全然知らない]/They also had the knowledge of how to use fire. 彼らは火の使い方も知っていた/His knowledge of baseball is far greater than mine. 彼は私なんかよりはるかに野球のことをよく知っている/use [share, show off] one's knowledge 知識を使う [共有する, ひけらかす]/acquire [gain, 《よりくだけて》] get knowledge 知識を得る (↓ 《くだけて》) では learn (...) や learn about ... を用いることが多い; ×learn knowledge としない/Knowledge is power. (引用) 知は力なり (イギリスの哲学者フランシス・ベーコンの言葉)/A little knowledge [learning] is a dangerous thing. 《ことわざ》少しばかりの知識は危険なものだ:「生兵(せいへい)法は掛けのもと」.

コーバスの窓 knowledge の用法

(1) 数え方 複数形にはしない. 数えるときは a piece [a bit, an item] of ~ とする.
(2) 不定冠詞との関係 具体的な場面を意識している場合は不定冠詞をとることが多い. また, その際, 図などの修飾語を伴いやすくなる. なお, 不定冠詞を伴うとしばしばひと通りの体系的知識を暗示する ▶You need to have a knowledge of computers to understand the book. この本を理解するにはコンピュータのひと通りの知識が必要です.
(3) 前置詞との関係 of が続くのが最も普通. about, on の場合, knowledge が the, a を伴うのは《まれ》. 科目などには通例 of ▶have some knowledge of [×in, ×on] English 英語がいくらわかる (この場合, about を用いると文法などの周辺的関連事項を意識する言い方になる).

語法 have ... knowledge は《ややかたく》で知識の量・有無について詳述する際に特に好まれる. 《くだけて》で知識の量・有無に軽くふれる場合は動の know を用いる方が普通.

- 「have (...) knowledge」という文型表示から, 教科書本文の have a lot of ... knowledge が「…の知識が豊富である」という意味になることを確認させる。
- コーバスの窓の(1)(2)には knowledge の可算・不可算用法についての説明がある。一般的に, 不可算名詞であっても, 具体的な場面が想定されやすい場合には可算になることがあるので注意させる。
- 語法の解説に注目させ, 教科書本文のように知識の量(ここでは a lot of)を表す際に用いる表現として, have ... knowledge が使われていることに触れるのもよい。

Crown English Communication I, p. 64.

—2

From January 1997 until April 1998, I lived along the Sumida River in a ⁽¹⁾cardboard house. This experience changed me. I saw the world with the eyes of a homeless person. I experienced homelessness and saw hungry people every day. To my surprise, my ⁽²⁾neighbors did not lose hope. They helped me in many different ways. Many did some kind of work, such as collecting cans. I kept working in a Japanese company ⁽³⁾without telling my co-workers where I lived. Every day I could see that people are people; it doesn't ⁽⁴⁾matter if they work in a company or live on the streets.

Crown English Communication I, p. 65.

The government reports that more than 15 percent of Japanese people live below the relative poverty line. For the elderly this number is more than 20 percent. ⁽¹⁾Approximately 2.3 million people in Japan do not have enough safe, nutritious food each day. I remember a time ⁽²⁾when we received a call from a single mother who had two small children. That day she had to ask the older child to give up a meal so that the smaller one could eat. Such things happen every day, even in Japan.

(1) approximately 副, p. 96.

ap·prox·i·mate·ly[★] /əprɒ(:)ksɪmətli-ˈprɒks-/ 副 おおよそ、
 ほぼ、約 (《略》 approx.) (→about 副 類義▶).

- ・ 略号(approx.)についての情報が、訳語に続いて《略》というロゴで示されているので注意させる。
- ・ 「おおよそ、ほぼ、約」という意味なので、生徒の知っている about との違いを意識させたい。(→about 副 類義▶)という参照指示から、about の副詞にある 類義▶ コラム(p. 7)をチェックさせて、about より正確な値を示すことや、《主に書》という使用域表示から、書き言葉でよく用いられることを確認させる。

類義▶ about と approximately, (a)round など
 about は正確な値を示すことを避ける最も一般的な語。approximately は正確な値に非常に近いことを強調し、誤差は実質上無視してもよい程度であることを暗示する。《主に書》や専門的文脈で好まれる。(a)round は前の2語の代わりにくだけた文脈で用いられるが、《米》では around の方が普通。また、《主に話》では (a)round about の形で用いられることもある。roughly は正確であろうとするより、とりあえずおおよっぱな値を示しておこうという意図を暗示する。ほかに概数を示す表現には ...or so¹, MORE OR LESS, GIVE OR TAKE A, in the REGION of A, circa などがある。

(2) when 副 2, pp. 2147–48.

【関係副詞】2 [[制限用法] ...する[した]〈時・日など〉 (→ which 3 [文法]) ▶ There are days *when* I just feel like giving up. やめてしまいたくなる日 that たびある (≡《かたく》... days on which I...)/ Do you know the day *when* he will come back? 彼が帰ってくる日を知っていますか (1 時を表す名詞節中は、未来のことには will を用いる)/ Tomorrow evening is the only time *when* I can see you this week. 明晩ぐらいしか今週お会いできる時はありません (≡《かたく》... the only time in [at] which I...)/ It happened *at a time when* I was living alone. 1人暮らしをしている時のことだった。

コーパスの副 副 + which による言い換え

《かたく》では ↑2 の用例のように 副 を伴う which で言い換えられるが、副 + which は全体の1割程度で、when を用いる方が圧倒的に普通。

語法▶ (1) that による言い換え 代わりに関係副詞 that を用いることができるが that は省略可能 ▶ Do you remember the time (*that*) we all went to Guam? みんなでグアムへ行った時のこと覚えているかい。
 (2) 先行詞の省略 the time, the day のように漠然とした時を表す先行詞はしばしば省略される (↓ 副 2. → that 副 6 [文法]) ▶ That was (the period) *when* I lived here. そのころに私はここに住んでいた/Sunday is (the day) *when* I'm quite free. 日曜日はかなり時間にゆとりがある。

- ・ サインポスト(隅付角かつこ【 】で表示)の【関係副詞】を参照させ、その機能を確認させる。その後、先行詞としては教科書本文の time に加えて、day もよく用いられることを用例から発見させる。
- ・ 第1, 第3 用例には前置詞 + which を用いた言い換えが(≡)の記号に続いて示されているので確認させる。前置詞 + which を用いた表現は、二重丸括弧で囲って《かたく》と示されているので、かたい表現であることに注意させる。

Crown English Communication I, p. 66.

—3

The first food bank started in the U.S. in 1967.
In Japan, we started our activities in 2000 and
became an NPO called Second Harvest Japan in
March 2002. Our name comes from the ⁽¹⁾idea of
“harvesting” surplus food.

We not only give food to people who need it,
but we also help companies save money. In 2010,
we “harvested” over 500 million yen ⁽²⁾worth of food.

Lesson 5—Section 3

(1) idea 図 1b, p. 962.

b [[the idea of A/doing]] A〈物・事〉[…する]という考え
 (1) of は同格を表す; → that 図 2 [文法]. (2) 時に of doing の代わりに to do や for doing が用いられる; [[the ~ that 節]] …という考え ▶How do you like *the idea of* a city with no cars? 車のない都市という案をどう思いますか/I don't *like the idea of being* [that I am] forced to do it. それをするよう押しつけられるのはいやだ (1) (2) like, love, hate などの後では通例 to do や for doing は用いない/I've been *toying with the idea of changing* my car. 車を買替えようかと思っている/The *idea of taking* a trip with Kerry makes me sick. ケリーと旅行すると考えるといやになる。

- [[the idea of A/doing]] という文型表示から、**1b** の「A[…する]という考え」に導く。その上で、A ないしは doing が、idea の中身を表す同格関係にあることを確認させる。of が同格を表すことは **2** にも記されているので注目させる。the を伴うことにも注意を向けさせたい。文型表示のスラッシュ(/)は、「A と doing のいずれも可能」という選択肢を表すことにも触れておきたい。
- of を使った同格節としては、第 3、第 4 用例がわかりやすいので確認させる。
- [[the ~ (that)節]]の略式文型表示からもわかるように、idea に続く同格の表現は of 以外に that 節を使っても表すことができるので、第 2 用例で確認させる。the idea [of being [that I am] forced ... に使われている()の記号は、角かっこ[]を使った言い換え表現の区切りがわかりにくい場合に、「言い換える開始点」を示すのに用いられているので注意させる。

(2) worth 図 1, p. 2193.

— 図 1 [[A('s) ~ of B]] A〈ある金額〉相当のB〈物〉
 ▶cause [\$15 billion [15 billion dollars] *worth of* damage to the Alaskan coast アラスカ沿岸に150億ドル相当の損害を与える。

2 [[A('s) ~ of B]] A〈ある期間〉分のB〈食料など〉, A〈ある期間〉かかるB〈仕事など〉 ▶twelve days' *worth of* food and water 12日分の食料と水。

- 教科書本文の 500 million yen という金額を表す語句を頼りに図 1 に導き、「5 億円相当の食糧」という意味になることを理解させる。
- [[A('s) ~ of B]]の用法指示から、A が所有格になる場合があることに注意を促す。idea の項でも触れたが、言い換え可能な部分の始まりを示す記号()が用例で用いられているので、ここで紹介することもできる。
- **1** と同じ構文で、**2** のように「ある期間分の物」という意味にもなるので、用例を含めてチェックしてさせておくのも効果的。

Crown English Communication I, p. 67.

Companies saved 80 million yen because they did not have to throw away the food that they could not sell.

Trust is very important in our work. When you have trust, food and financial support naturally ⁽¹⁾follow. We never go to a company and say, “Can you give us food or money?” We think of them as equal partners. We tell them about our activities and ask them, “Is there ⁽²⁾anything we can do together?”

NPO's are still new in Japan. As NPO's grow and become more professional, people will see that they can play a bigger ⁽³⁾role in society. Just wanting to do something good is not enough. The important thing is how you run your NPO. Second Harvest Japan is unique because we deal with both business and welfare.

Crown English Communication I, p. 68.

—4

“Helping” others is not easy. Sometimes we send the wrong message when we say, “Can I help you?” We mean well, but we sometimes send the message, “You are not OK; you need to change.” I would ⁽¹⁾rather think of it this way: “I see you have a flat tire on your bike. I have some tools and patches here if you want to use them. I can also stay around while you fix your bike if you want ⁽²⁾company.” This is what I learned from my experience along the Sumida River.

Lesson 5—Section 4

(1) rather 図 2a, p. 1554.

2a [would rather do (than do)] (...するより)むしろ…したい, …した方がいい (1)《くだけた話》ではしばしば 'd rather の形で, (2) prefer to do (rather than (to) do) と違って to do は通例従えないが《くだけて》では《まれ》に would rather do than to do の形をとることがある; →prefer ① **b**. (3) had rather ... は《まれ》▶I would rather stay at home than go with him. 彼と一緒にいくくらいならうちにいた方がいい/I'd rather have been alone. 私は一人であれば[いたら]よかった (1)間違った選択に対する後悔を表す; 後悔の気持ちをより強く示すには I wish I had been alone. という)/Would you rather work in movies or in television? テレビと映画ではどちらの仕事がお好きですか。

コミュニケーション 控えめな拒絶

A: Where are you going today?

今日はどこへ行くの。

B: I'd rather not say.

(どちらかというと言いたくないわ。

1) would rather の直後に not を伴って「(むしろ)…したくない」の意を表す。

X: How about another cup of tea?

お茶をもう1杯いかが?

Y: No, thank you. I'd rather not.

いや, 結構。遠慮しておきます。

1) 相手の気持ちを思いやった控えめな断り方 (→mind ① **b** 語法)。

語法 ① **コ-バ** rather do than の後は通例原形不定詞が続くが, would rather の後に進行形が続く場合は, doing が好まれる; →make ⑨ **文法** ▶I'd rather be speaking than sitting. 座っているより話をしている方がいい。

- [would rather do (than do)] の文型表示から **2a** に注目させる。**1** (1)にある「《くだけた話》では would は省略形になることもある」という内容の記述も確認させたい。
- 典型的な形として, 教科書本文とも似ている第1用例をチェックさせておく。さらに, **コミュニケーション**には rather を用いた丁寧な断り表現が出ている。会話の重要表現として触れておくといよい。

(2) company 図 2, p. 386.

2 ① 同伴, 同行, 同席, 一緒にいること (companionship); 交際, 付き合い; 仲間, 連れ ▶I enjoy her [my own] company. 彼女は一緒にいると楽しい[私は一人でいるのが好きだ]/Dave is good [poor, boring] company. デイヴと一緒にいて楽しい[楽しくない, 退屈な]男だ/His mother doesn't like the company he keeps. 母親は彼が付き合っている連中を嫌っている。

- 教科書本文が want company と無冠詞単数形になっているので, ここでは company が不可算名詞として使われていることをまずチェックさせる。辞書を引いて①になっている「会社」の意味ではなく, 「同席; 交際; 仲間」を表す **2** の①用法を参照させる。教科書のこの部分は, 「誰かと一緒にいたい」という訳になることも確認させておく。

Crown English Communication I, p. 69.

My work is my “⁽¹⁾vote” on what kind of society I want to live in. Food is also a “tool.” I want to live in a society where there is a way to get these “tools” to the people who need them. I don’t think of my work as “helping” people, but rather matching up surplus food with those who can use it. I am passionate about making these matches. It is what makes my job so much ⁽²⁾fun.

(1) vote 動① 1, p. 2108.

— 動 (～s /-ts/; ～d /-id/; voting)

— ① 1 〈人・組織などが〉〈人・提案などに賛成の/…に反対の〉投票をする *for, in favor of/against*; 〈議題などに関して〉投票を行う *on, (まれ) about* ① *vote for, vote on* は受け身可) ▶ *have the right to vote* 投票権を持つ/*vote for [against] the plan* その計画に賛成[反対]の投票をする/The award is *voted on* by sportswriters. その賞はスポーツ記者により投票される. 2 〈くだけて〉〔通例一人称で〕「…を」提案する *for* ▶ *I vote for the new rating system.* 新しい評価法の導入を提案します.

- ・ 「票を投じる」ことを表す *vote* だが、一緒に用いる前置詞による用法の違いを説明したい。二重山形かっこ「」を使って *vote* と一緒に用いる前置詞が示されているが、「人・提案などに賛成の」投票をする」という場合は *for, in favor of* が使われることをまず確認させる。さらに、太字になっている *for* の方がよく使われることにも触れておく。「…に反対の」投票をする」場合は *against* が使われることも確認させる。
- ・ 教科書本文には *on* が使われているので、「議題などに関して」投票を行う」場合に当たることをチェック。同じ意味だが、使われることがまれな *about* については、二重丸括弧に囲って《まれ》と表示されていることにも注意させる。

(2) fun 名 1a, p. 778.

fun /fʌn/ [語源は「はかにする」]
(形) funny

— 名 1a 楽しみ, おもしろみ; ふざけ, 慰み ▶ *It would [should] be [a lot of] [great, good, enormous] fun.* それはきつとおもしろい/have *fun* with the movie 映画を楽しむ/She's very cheerful and *full of fun*. 彼女はとても元気で愉快な人だ/What *fun*! とてもおもしろいね; なかなかおもしろそうだ/That's *not my idea of fun*. それは私の趣味ではない/Have *fun*! 楽しんでよ; がんばってよ/This is *so much fun*. これはすごくおもしろい (1) This is *much fun*. は《まれ》→much 語法 (2) 《非標準》では *fun* を 扱いて This is so [very] *fun*. ということがある)/It's no [not (much)] *fun*. ふざけるな; つまらない/I had *fun* going around. あちこちを回って楽しんだ/It sounds like *fun*. それは楽しそうだ/It was just *a bit of fun*. ちょっとふざけただけ/A is half the *fun*. A〈事〉そのものが楽しみの半分だ.

- ・ まず *fun* は不可算名詞であり、辞書には 1a と記されていることに注意させたい。教科書本文の *so much fun* は第7用例で太字になっているので確認させる。
- ・ よく使われるコロケーションとして、*have* (第2, 6, 9 用例)について、あるいは教科書本文の *so much* 以外の程度を表す表現(第1, 3, 8, 11 例)などにも言及すると *fun* の使い方がよくわかって効果的。